

『学級状態』

都留文科大学(山梨県都留市)の河村教授らが平成16年から17年にかけて全国の小中学生を対象に行った「いじめの発生要件と防止の手だてに関する提言」(H18年12月)がある。その中で、いじめの発生と学級状態の相関関係について述べている資料に出会った。

これらの内容についてご記憶の方もいらっしゃるだろうが、今一度、学級状態といじめの発生状況の関係を考える機会としたい。

『満足型の学級』:学級にルールが確立されており、その中で子どもたちが主体的に生き生きと活動している。また、親密な人間関係があり、子ども同士のかかわりや発言が積極的で、笑顔が絶えない。

『管理型の学級』:集団生活のルールが形成されているが、学習や活動への意欲は差が大きく、人間関係の乏しい学級。教師の評価を気にし、シラッとして活気がない。

『なれあい型の学級』:自由でのびのびした雰囲気だが、学級のルールは低く、授業で私語があったり、係り活動ができないなどの問題がある。小さなトラブルが頻発し、特定の子どもが学級を牛耳ることもある。

『荒れ始めの学級』:管理型の学級やなれあい型の学級に十分な対応をしないと、それぞれのプラス面が減り、マイナス面が表れる。教師の指導が功を奏さなくなり、子ども達が互いに傷つけ合う行動が増える。

『崩壊した学級』:学級が教育的環境ではなく、授業は成立しない。子どもたちは傷つけ合い、不安を軽減するために、小グループを作って同調的に結束したり、他の子どもを攻撃して自分を守る。

一定のルールが自然に形成され人間関係も親密な「満足型」クラスに比べ、のびのびしているが授業中に私語も見られる「なれあい型」クラスの方は、小学校では3・6倍もいじめが起きている等等、河村教授らは、「クラスの状態を考えたいじめ問題対策が必要だ」と指摘している。

わたしが出会った中学校のS先生はなれあい型の学級づくりが得意な方。自由でのびのびとした

雰囲気で見、生徒は伸びやかに育っているように見えた。ところが、生徒達の規範意識が低い  
ため、小さなトラブルが絶えない。いじめも発生する。ベテランなのだが生徒指導のノウハウを持ち  
合わせていなかった。事が起こってはその度に生徒を呼んで注意している担任の姿を今でも思い出  
す。生徒を育てずに放置しておいたのはこの担任なのだが...

「なれあい型」だから悪い、「管理型」だから悪いということではない。子どもたちに  
応じた手立てをとることで子ども達を成長させ、その結果として学級を成長させることである。  
つまりは、子どもの実態に応じた学級経営をすることだ。

子どもたちに応じた手立てをどうするのか。なれあい型の学級では子どもたちが安心して関わり  
あえるルールを学級に育てることであり、管理型の学級ではすべての子どもが自分の価値を友達や  
教師に認めてもらい、自分らしさを発揮できる“ふれあい”を増やすことではなからうか。